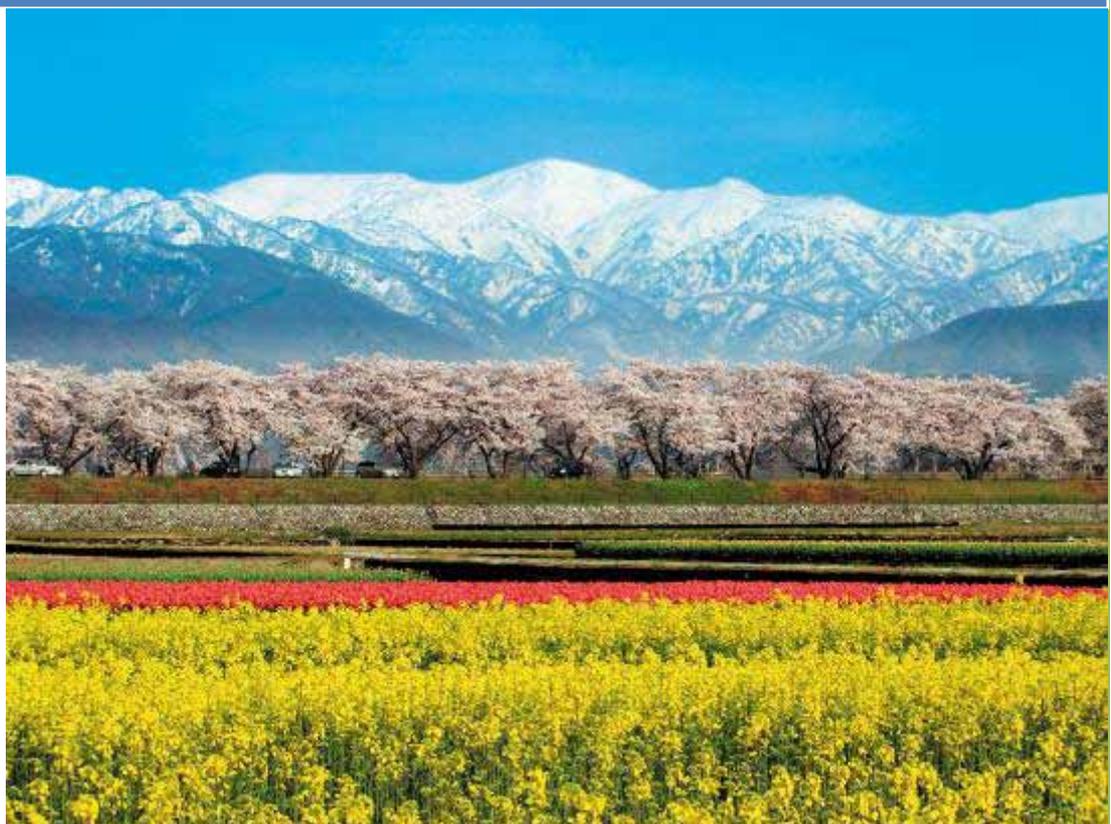


富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ 観光圏整備計画



平成21年2月

富山県

魚津市

滑川市

黒部市

入善町

朝日町

目次

はじめに（観光圏整備計画策定の趣旨）

1 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針

2 観光圏の区域

3 滞在促進地区の区域

4 観光圏の整備目標

5 観光圏整備事業に関すること

6 計画期間

7 関連する社会資本整備、地域再生事業、地域活性化事業等

8 一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏協議会について

9 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容

表紙写真：舟川べりの桜並木と北アルプス朝日岳（写真提供：菅野印刷興業㈱）

富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏整備計画

はじめに(観光圏整備計画策定の趣旨)

富山県東部地域の滑川市、魚津市、黒部市、入善町及び朝日町の3市2町(以下「にかわ地域」と呼称します。)は、「屋気楼」・「ホタルイカ」・「埋没林」などで知られる



る神秘の海「富山湾」、後立山連峰の朝日岳・白馬岳・唐松岳・五龍岳・鹿島槍ヶ岳や立山連峰の僧ヶ岳・駒ヶ岳・毛勝三山といった岳人たちの憧れの峰々がそびえ立つ「中部山岳国立公園」など、3,000m級の山から深海1,000mの海まで高低差、実に4,000mに及ぶバラエティに富んだ魅

力ある大自然を有しています。この地域は、峰々に降り積もる大量の雪が、ブナなどの原生林の木々に涵養されながら、やがて清冽な河川水や伏流水となり田畑を潤すとともに、海では適度な栄養塩を含んだ海底湧水となって豊かな海の幸を育み、さらにいつかは蒸発して雲になり、雨や雪になり、また大地に帰ってくるという、壮大な「水の循環サイクル」によって支えられています。それは「一本の木が、千本のプリを育てる」ともいわれるように、すべての命が水でつながっている「水が織りなす奇跡の物語」でもあります。日本一の清流「黒部川」によって築き上げられた秘境「黒部峡谷」や、日本一の河床勾配を誇る「早月川」



「片貝川」などの急流河川群、そしてその上流域に点在する巨木群「洞杉」、扇状地の扇端部で見られる数々の湧水群や富山湾の深海から汲み上げられる海洋深層水などの豊富な水資源など、いずれもこの地域の特長として、住む人や訪れる人に潤いを与えてくれます。

また、いかわ地域は、縄文の息吹を今に伝える「不動堂遺跡」や「浜山玉づくり遺跡」、NHK大河ドラマ「天地人」の舞台の一つでもあり上杉勢と織田勢の攻防が繰りひろげられた「魚津城跡」などの戦国遺跡、江戸時代初期に我が国最大の産出量を誇り加賀百万石発展の礎となったとい



われる松倉金山などの「越中七かね山」史跡、大正時代に越中女一揆として全国的な民衆蜂起運動へと発展した「米騒動関連史跡」、大正以降の電源開発により我が国の近代化を支えた「黒部峡谷の産業遺産群」など、数多くの歴史・文化資源を有する地域です。

これまでもこの地域では、域内の豊かな資源を活かそうとJRや旅館などの観光事業者及び行政による「新川地域観光開発協議会」が30年以上にわたり活動を続け、域内観光マップの作成や出向宣伝の取組み、魚津駅観光センターの設置など、情報発信の分野を中心に連携協力した広域的な観光振興に取り組んできました。



折しも、2014（平成26）年度には北陸新幹線が長野から金沢まで延伸され、いかわ地域においても新駅が開業する予定ですが、これを誘客のチャンスにできるか否かは、今後5年間の、この地域の取組み如何にかかっているとんでも過言ではありません。

この度、「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律（平成20年法律第39号）」が平成20年7月に施行されたことから、これまでの観光振興の取組みをより一層強化し、いかわ地域の地域資源を活かした観光旅客の来訪・滞在の促進を図るための指針として、法第4条の規定に基づく観光圏整備計画を、いかわ地域の3市2町と富山県が共同して策定します。

写真1：富山湾に春を告げるホタルイカ（滑川市）

写真2：七重滝（しっちゃだき）（朝日町）

写真3：名水百選・杉沢の沢スギ（入善町）

写真4：富山湾の神秘・屋気楼（下段が発生時）（魚津市）

写真5：清水（しょうず）の里 生地まちあるき（黒部市）

1 観光圏の整備による観光旅客の来訪び滞在の促進に

関する基本的な方針

(1) 現状分析と課題

現状

ア にかわ地域の位置及び交通

にかわ地域は、富山県の東部に位置し、東側が新潟県、長野県に面しています。総面積は、約982km²で富山県の全体の約23%を占めます。この地域は急峻な山々にかこまれ、深い富山湾を中心に抱くように平野が広がっています。また、にかわ地域の各行政区の面積・人口は、以下のとおりです。

滑川市	54.61 km ²	33,935人
魚津市	200.63 km ²	45,676人
黒部市	427.96 km ²	42,879人
入善町	71.29 km ²	27,535人
朝日町	227.41 km ²	14,475人
計	981.90 km ²	164,500人

人口は、平成21年2月1日現在の住民基本台帳人口



にかわ地域ではJR北陸本線が域内外をつないでおり、現在、東京から約3時間、大阪から約3時間30分、名古屋から約4時間、新潟から約2時間40分程度を要します。しかし、やや内陸側で建設中の北陸新幹線の開業後は、東京から約2時間に短縮されます。設置される新黒部駅（仮称）は、立山黒部観光や圏域の玄関口として期待されており、各市町からのアクセス道路や在来線接続新駅の整備が課題です。道路交通では、JRに並行して走る国道8号、北陸自動車道が主要幹線ですが、国道8号の一部区間でバイパス化が完了しておらず、慢性的な渋滞が発生しています。また、3



市2町には、それぞれ北陸自動車道のICがあります。また、私鉄では、富山地方鉄道が富山～宇奈月温泉間を、さらに黒部峡谷鉄道のトロッコ電車【写真】が、宇奈月～樺平間をつないでおり、海岸沿線の横軸方向に対し、湾岸地域から山岳地域までを結ぶ縦軸方向の交通路となっています。

ます。

滑川IC・魚津IC・黒部IC・入善スマートIC・朝日IC（うち滑川、黒部には高速バス停留所併設）

イ にかわ地域の自然条件（地形及び気象）



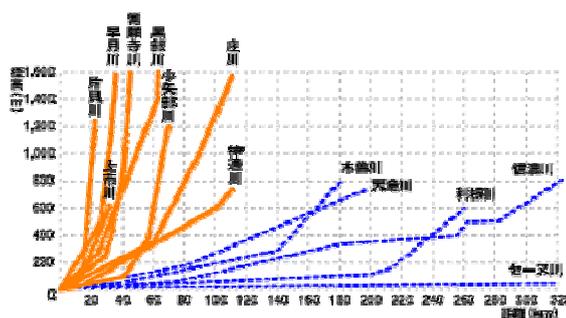
富山県の東部に位置するにかわ地域は、北西部で水深1,000mの富山湾に面し、南東部では3,000m級の立山連峰・後立山連峰の山々が連なっており、山岳地帯から富山湾に向かい大きな高低差のある黒部川、早月川、片貝川、小川など多数の急流河川が流れています。これらの河川の下流域には、水資源に恵まれたいくつもの扇状地が存在し、また上流部には黒部峡谷や片貝の南又谷などの峡谷・渓谷【写真】が存在しています。

このように、域内は豊かな自然を有し、南側が中部山岳国立公園に指定されているほか、県立自然公園や県定公園に指定されており¹、特別天然記念物のライチョウやニホンカモシカも生息しています。さらに朝日岳や白馬岳、僧ヶ岳、毛勝三山など

北アルプス北部を占める峰々や片貝川上流部に広がる巨木群「洞杉」【写真】などもこの地域の重要な観光資源であり、今後山岳ガイドツアーやエコツアーなどの着地型旅行商品の開発が期待されています。

海岸線は比較的平坦ですが、海面下は急傾斜して「あいがめ」と呼ばれるいくつもの深い海底谷を形成し、良好な漁場となっています。

また、層気楼現象が見られることでも有名な海岸部には、ほたるいか群遊海面や埋没林²、黒部川扇状地湧水群、ヒスイ海岸などの自然観光資源が点在し、これらを活かした海洋レジャー施設や自然学習拠点も整備されています³。



(富山県には急流河川が多い。また、富山湾は浅瀬が少なく急深な地形が特徴で、水深300m付近を境界に冷たい深層水(日本海固有水)と温かい対馬暖流水に分かれており、これが、湾内でさまざまな魚が獲れる理由となっている：富山県HPより)



にかわ地域は、平野部の年間平均気温が14 前後と比較的温暖ですが、年間降水量は、山岳部で4,000mm～5,000mm、平野部でも2,500mm～3,000mmと多く、我が国屈指の多雨多雪地帯です。このため、とりわけ水に恵まれた地域となっており、このことは、2008年10月に、国連教育科学文化機関(ユネスコ、UNESCO)が公表した「世界の帯水層⁴分布地図」に記載された世界273か所⁵の中に「黒部川流域」【写真】が含まれたことから、窺い知ることができます。

- 朝日県立自然公園、松倉城跡県定公園、片貝県定公園。
- 魚津埋没林は、約2千年前の原生林が河川の氾らんで埋まり、その後海面上昇により現在の海面より下になったもの。また、入善沖の海底林は約8千～1万年前のもので、低温で清冽な海底湧水が腐敗を防いだといわれている。こうした海底湧水にはブナなど山からの栄養が豊富に含まれているため、魚の餌になるプランクトンが発生し、豊かな漁場を育てている。(富山大学理学部張勁教授の講演録「木一本ぶり千本 - 水の輪が作った奇跡 - 」(<http://www.nihonkaigaku.org/03f/i030809/chyou/chyou.html>)より)
- 滑川市のタラソピア、ほたるいかミュージアム、魚津市の水族博物館、ミラージュランド(遊園地)、埋没林博物館、海の駅「層気楼」、黒部市の石田浜(海水浴場・キャンプ場・パークゴルフ場・釣り桟橋・マリナー)、魚の駅「生地」、入善町の海洋深層水パーク、園家山キャンプ場、沢スギ自然館、朝日町のヒスイ海岸(海水浴場・オートキャンプ場)など。
- 帯水層：スポンジのような構造に岩石が重なった地下の層で、ここに地下水が保持されている。
- 各大陸別の内訳：欧州155、米州68、アフリカ38、アジア12。(うち日本4か所)

ウ にいかわ地域の社会条件（産業及び文化）

にいかわ地域は、有史以来暴れ川が幾度となく氾らんを繰り返す大変貧しい地域でしたが、江戸期の新田開発や明治以降の治水事業、戦後の流水客土事業など先人達のたゆまぬ努力により、豊かな水の恵みを楽しむ地域へと変貌を遂げました。この地域は、米どころ富山県でも有数の豊かな穀倉地帯ですが、魚津市の加積りんご、西布施ぶどう、入善町の入善ジャンボ西瓜など多彩な特産品もあります。また、富山県の花でもあるチューリップ栽培【写真】は、観光資源としても活用されています。



海沿いでは、すべての市町に漁港があり¹、「天然のいけす」富山湾²の新鮮な海産物が水揚げされます。³また、滑川市と入善町では、海洋深層水の取水活用施設が整備され、酒造・飲料・化粧品・食品・アワビ養殖などに活用されているほか、滑川市では、国内初の海洋深層水体験（タラソテラピー）施設「タラソピア」【写真】も整備されています。

山岳部には豊富な水量と地形を活かした黒部川水系のダム群⁴は、トロッコ電車や宇奈月温泉同様、黒部峡谷の重要な観光資源であり、これらを紹介する産業観光商品の開発が待たれます。

また製造業を中心とした企業活動も展開され、Y K K ツアーズ【写真】などの産業観光への取り組みもすすめられています。

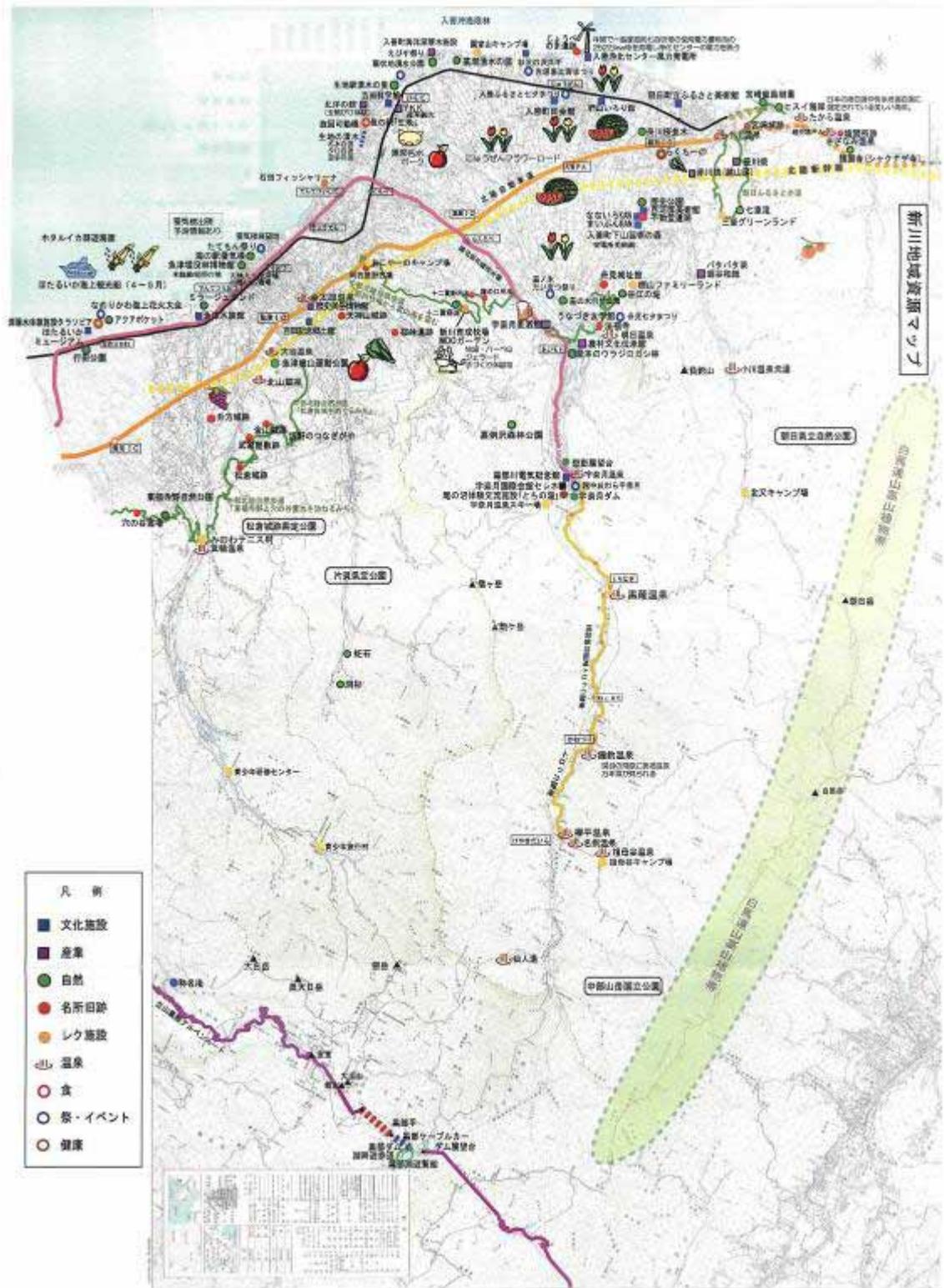


- 1 滑川漁港（滑川市）、経田漁港（魚津市）、石田漁港、黒部漁港（黒部市）、入善漁港（入善町）、宮崎漁港（朝日町）。このほか、魚津港（魚津市）は、富山県管理の地方港湾である。
- 2 富山湾には、日本海の約800種の魚のうち約500種が分布している。このため様々な海の幸を味わうことができる。
- 3 にいかわ地域は、かつて未開の北洋漁場を開拓した「越中衆」と呼ばれる漁師たちの故郷であり、昆布や北洋の塩乾物がよく食べられるなど、食文化において今でも北海道との深いつながりが認められる。
- 4 合計約100万キロワットもの電力発電量を誇っており、平成19年、経済産業省により「我が国の重工業を支えた中部山岳の電源開発関連遺産群」として「近代化産業遺産」に認定された。

エ にかわ地域の観光資源

また、にかわ地域の主な観光資源を地図で示すと、おおむね図1のとおりです。

図1 にかわ地域の観光資源マップ



オ にかわ地域の観光動向

総数

にかわ地域の平成19年の各市町別の延べ観光客数は、以下のとおりです。

・ にかわ地域全体	4,896千人 (実数推計2,954千人)
内訳	
滑川市	313千人 (6%)
魚津市	1,344千人 (28%)
黒部市	2,460千人 (50%)
入善町	467千人 (10%)
朝日町	312千人 (6%)
(参考) 富山県全体	28,048千人 (実数推計16,921千人)

- ・ 延べ入込数では4,896千人の観光客が来訪 (富山県全体の約17%)
- ・ 実入込数では、およそ2,954千人の観光客が来訪 (富山県観光戦略基礎データから抽出のパラメータより推計)

宿泊

平成19年「宿泊旅行統計調査」(国土交通省)の調査対象宿泊施設(従業員数10名以上)から報告された宿泊者数の合計は、511,671人となっています。

このうち宇奈月温泉^{【写真】}の平成19年の宿泊者数は、324,366人となっており、宿泊者数約60万人を数えた平成元年の5割近くにまで落ち込んでいます。

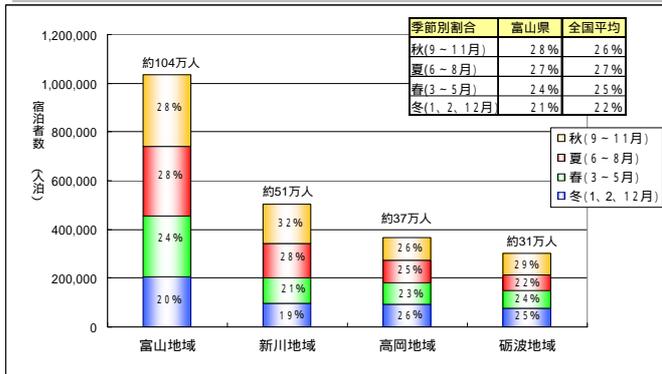
資料未提出宿泊施設分の推計は含んでいません。

また、季節別では、秋期(9月～11月)の宿泊者の割合が最も多く全宿泊者の約32%を占め、逆に冬期(12月～1月)の宿泊者の割合は、全宿泊者の約19%と少なく、季節間の変動が、県内の他地域に比べ、より大きいという特徴があります。

その他、富山県における平均宿泊日数は、過去の調査によると1.46日から1.78日という結果であり、1泊以上が6割以上を占めるなど、全国平均を若干下回っていますが、これは、能登・金沢・高山・白川郷などの近県の観光地とセットにしたツアー企画が多く、県内単独での滞在型旅行商品がこれまで育ってこなかったことが理由と考えられます。

富山県における地域別宿泊者数の動向(H19.1～12)

富山地域が約100万人、新川地域が約50万人。

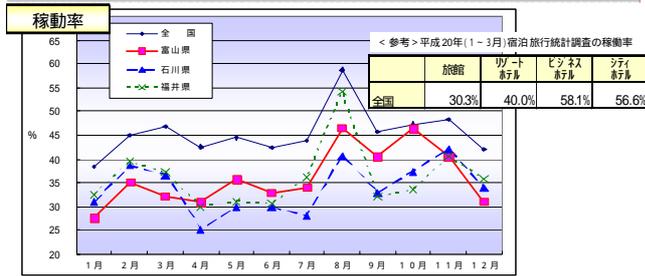


出所: 国土交通省 平成19年宿泊旅行統計調査 (従業員数10人以上の宿泊施設を対象。宿泊目的を問わず。) 各施設からの報告数の単純集計値 (未回答分の推計値を含まないため、富山県の平成19年宿泊者数(2,589千人)とは一致しない。)



北陸三県の宿泊施設の稼働率

春から秋は、隣県と同程度だが、富山県は、冬季の稼働率が低い。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計	順位
全国	38.3	44.8	46.8	42.6	44.4	42.4	43.9	58.7	45.7	47.3	48.2	42.0	45.4	
富山県	27.5	35.1	32.1	30.9	35.8	32.8	34.0	46.6	40.4	46.4	40.4	31.0	36.0	39
石川県	30.9	38.5	36.6	25.0	29.8	29.8	28.0	40.6	32.9	37.3	42.0	34.0	33.8	44
福井県	32.4	39.4	37.0	29.9	31.0	30.5	36.1	54.2	32.1	33.4	40.4	35.9	36.0	39

出所:国土交通省 平成19年宿泊旅行統計調査(従業員数10人以上の宿泊施設を対象、宿泊日数を問わず。)

(参考)富山県における宿泊日数(3調査結果)

いずれの調査においても、1泊が6割以上。全国的には、平均を若干下回る。

	富山県観光戦略 基礎データ調査	旅行者動向2007	じゃらん宿泊旅行調査 2008		
	富山県	富山県	全国平均	富山県	全国平均
1泊	63.3%	60.2%	59.9%	65.1%	59.7%
2泊	24.1%	25.0%	25.1%	26.8%	26.5%
3泊以上	12.6%	10.3%	13.3%	8.1%	13.9%
平均	1.78日	1.55日	1.64日	1.46日	1.69日

【出所】
 ・富山県観光戦略基礎データ調査(実施時期:平成18年度、回答者数:5,793人)
 ・(財)日本交通公社「旅行者動向2007」(実施時期:平成19年10月、回答者数:2,151人)
 ・(株)リクルート「じゃらん宿泊旅行調査2008」(実施時期:平成20年4月、回答者数:13,882人)

(資料:富山県観光課作成)

訪日外国人

にいかわ地域を代表する国際観光地である黒部峡谷鉄道トロッコ電車の訪日団体観光客数は、19,595人(平成19年実績)であり、年々増加の一途をたどっています。また、そのおよそ9割にあたる17,542人が韓国からの訪日観光客であり、台湾からの入り込みが全体の約8割を占める立山黒部アルペンルートとは異なる傾向を示しています。

また、にいかわ地域全体の外国人宿泊数は年間13,564人(平成19年実績)であり、そのうち7,829人が宇奈月温泉での宿泊者となっています。

表2 外国人観光客の入り込み・宿泊状況(人)

	黒部峡谷鉄道			宇奈月温泉		
	H18年	H19年	対前年比	H18年	H19年	対前年比
合計	12,749	19,595	153.7%	4,389	7,829	178.4%
台湾	1,243 9.8%	1,147 5.9%	92.3%	752 17.1%	434 5.5%	55.7%
韓国	11,437 89.7%	17,542 89.5%	153.4%	3,349 76.3%	6,913 88.3%	206.4%
中国	30 0.2%	0 0%	皆減	160 3.7%	319 4.1%	199.4%
その他	39 0.3%	906 4.6%	312.8%	128 2.9%	163 2.1%	127.3%

* 下段は構成比

* 黒部峡谷鉄道の実績は団体客のみであり、個人客は含まない。またH19年の「その他906人」の内訳中、784人は香港である。

(資料:黒部峡谷鉄道、宇奈月温泉旅館協同組合)

黒部峡谷鉄道

黒部峡谷鉄道【写真】は、宇奈月～樺平20.1kmを平均時速16km、約1時間20分で結ぶ軌間762mmの軌道で、トロッコ電車の愛称で親しまれています。5月1日から11月15日までは日17～18往復(土休日は18～19往復)、11月16日から11月30日は日12往復が運行され、乗客は全国有数の峡谷美を楽しんでいます。季節別では、10月の紅葉シーズンが全体の約23%と最も多客期であり、次いで8月が約20%、5月が約13%、9月が約12%、7月が約11%を占めています。



次に、トロッコ電車の乗車を含んだパックツアー全 30 本の分析結果を示します。

JTB主催旅行のみ

【発地分析】

- ・日帰りは長野県内発の 2 本だけで、2 日が 23 本、3 日が 5 本。
- ・東京・新宿と名古屋発は全て 2 日間の商品。
- ・大阪・京都発は 2 日より 3 日のコースの方が多い。

【交通手段分析】

- ・東京からは鉄道、名古屋と関西からはバス利用が多い。
- ・福岡発は、名古屋まで航空機利用で、そこからバスで移動するツアー。
- ・大阪・京都発は、2 日より 3 日のコースの方が多い。

【宿泊先分析】

- ・1泊2日ツアーでは、宇奈月温泉や富山市内など県内が多い。
- ・2泊3日になると県外泊の割合が高くなる。

【添乗員の有無】

- ・添乗員付きが 25 本と多い。
- ・添乗員が付かない 5 本は、樺平でナチュラルリストから案内を受けるか、立山室堂を往復するツアー。

【トロッコの下車駅】

- ・樺平が 8 本、鐘釣が 22 本。（鐘釣折り返しで、約 1 時間短縮。）
- ・樺平 8 本中 2 本は長野発日帰り、5 本は添乗員なしツアーで、名古屋発の 1 本では、終点まで行くことを売り物にしているくらい。
- ・鐘釣での下車を「万年雪が見られる」と宣伝するケースが多い。

【その他の分析結果】

- ・全 30 本中 19 本が、黒部立山アルペンルートの通り抜けとセット。
- ・2泊3日ツアーではこれに上高地や高山などが入る。
- ・アルペンルートを通らず、白川合掌集落を観光するツアーも。

（黒部市観光振興計画より）

乗客の発地割合を予約実績から分析すると、平成 20 年度の予約数 350 千人に対し、関東が 35.1%、東海が 15.9%、関西が 14.5%と大都市圏からの集客が中心であります。以下、北陸 3 県 9.0%、九州・沖縄 6.8%、海外 5.5%、北海道・東北 5.0%、中国・四国 4.2%、甲信越 4.0%の順です。

前年比では、東海が 25.1%増と平成 20 年 7 月の東海北陸道の全線開通を受け大幅な伸びを示したほか、北陸 3 県 21.0%増、関東 10.0%増などとなっています。

宇奈月温泉地区

平成 19 年の入湯客は 373 千人で、そのうち、宿泊客が 324 千人（86.9%）となっています。また、宿泊客のうち、北陸 3 県以外からの県外客が 68.8%となっています（図 2）。旅館の料金区分では、一泊二食つきで 1 万円強から 4 万円程度の比較的ハイエンドに近い層をメインターゲットとした温泉旅館が中心ですが、ニーズの多様化もあり、素泊まりや一泊朝食つきで 5 千円台のリーズナブルな宿泊施設も健闘しています。

また、宿泊客の利用交通機関別比率では、10 年前はマイカーでの来訪が過半数を占めておりましたが、現在では観光バスでの来訪が多くなっています。（図 3）。

発地別比率では、北陸 3 県の 31.2%を筆頭に、関東 24.3%、東海 15.6%、関西 13.8%の順となっており、10 年前と比べ、関東の割合の伸びと関西の比率低下が顕著となっています。（図 4）

図 2 宇奈月温泉入湯客・宿泊客の内訳

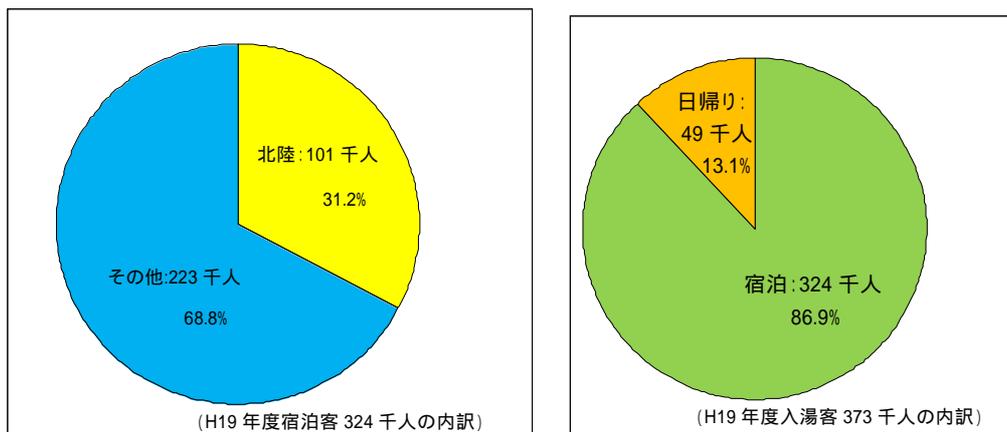


図 3 宇奈月宿泊客の利用交通機関別比率の変化（H9 H19）

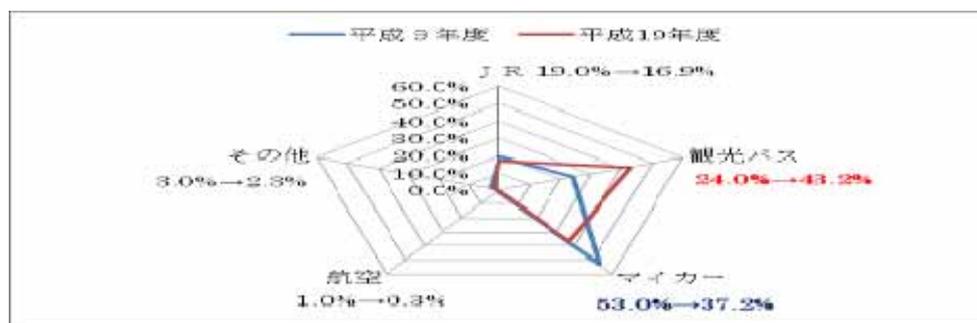
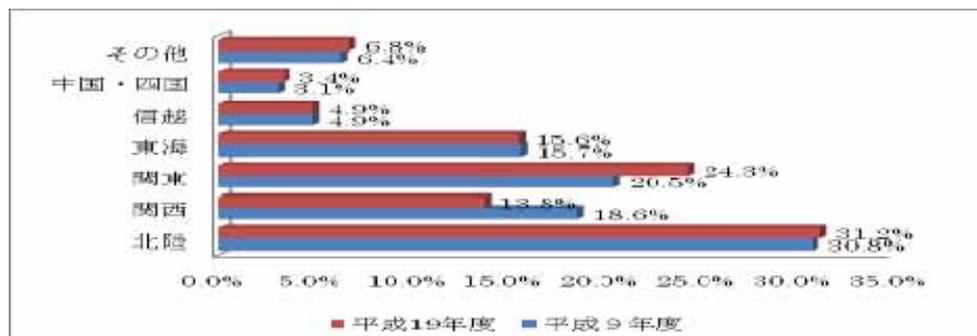


図 4 宇奈月温泉宿泊客の発地別比率の変化（H9 H19）



H20 年度の 12 月末現在の数値では、東海が全体の 21.6%と大きく伸びている。（東海北陸道全通効果）

このほか、アンケート調査から次のような特徴が指摘されています。

- ・ 県外客の約半数は、関東からの客。
- ・ 3割は、50歳代。
- ・ 4割強が、宇奈月温泉に初めて来た客。
- ・ 交通手段は自家用車が67%で、電車は11%にとどまる。
- ・ 観光先は、トロッコ電車が66%で、とちの湯15%と続く。
- ・ 宿の接客は「普通」と「良かった」がほぼ半々。
- ・ 再訪希望では「機会があれば」66%、「ぜひ来たい」34%。

(平成15年度「宇奈月まちづくり計画等策定事業報告書」より)

なお、宇奈月温泉街には現在、旅館組合加盟のホテル、旅館、民宿が14軒あり、収容定員の3,447人から宿泊稼働率を求めると約26%となります。

魚津駅前地区

魚津市商工観光課調べによる主要宿泊施設9軒¹の平成19年の宿泊客数の合計は135千人となっており、そのうち、金太郎温泉・北山鉱泉など温泉旅館での宿泊者数が81千人(60.1%)となっています。こうした、温泉旅館での宿泊者像は、おおむね宇奈月温泉と同様、料金よりも質を重視する団塊の世代など50代・60代が中心です。しかし、近年相次いだ駅前型ビジネスホテル、シティホテルの建設により、若年層やカップルなど幅広いニーズに対応できる地区へと変貌しつつあります。特に、魚津駅前の「柿の木割り」と呼ばれる区域は、人口比では日本有数の飲食店集積率²を誇る一画となっており、富山湾の新鮮な海の幸を求める旅行者らに好評です。



(写真：魚津駅前の「うまい水」³)

- 1 調査対象宿泊施設(ホテルグランミラージュ、ホテルサンルート魚津、魚津スカイホテル、金太郎温泉、天神山温泉、北山鉱泉)
- 2 かつては、人口比での飲食店集積率が横浜に次いで全国で2位であったといわれる。
- 3 「うまい水 ほんとに魚津は水もうまく 空気もうまい 長生きしたけりゃ魚津において うまい空気に水がある」(故池田弥三郎氏)

その他の宿泊地

にかわ地域のその他の宿泊地としては、朝日町の小川温泉やヒスイ海岸の民宿・旅館、入善町の黒部川明日(あけび)温泉、黒部市の生地温泉などが挙げられ



ます。平成19年の宿泊客数では、小川温泉が55千人、ヒスイ海岸の民宿・旅館が9千人、黒部川明日温泉が11千人、生地温泉が6千人となっています。(各市町調べ)

ヒスイ海岸では、タラ汁が名物である。【写真】

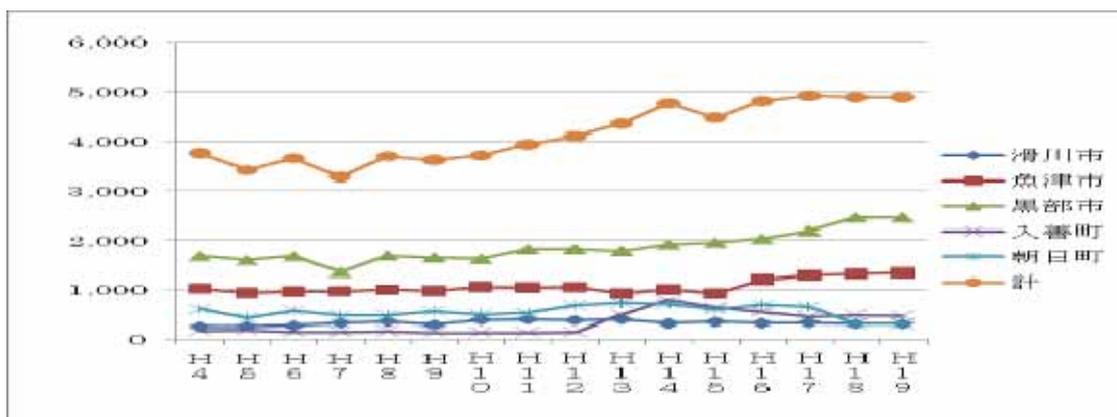
課題

ア 観光入込客数の伸び悩み

平成19年の観光入込客数は、前年比0.1%増の4,896千人でした。平成7年以降、平成14年までは、順調な伸びを記録しましたが、その後は平成17年の4,922千人をピークにおおむね横ばい・伸び悩み傾向にあります。（図5参照）

このような状況から脱却し、観光客の誘客増を図るためには、地域の魅力を見直すと共に、観光客のニーズに即した創意・工夫ある取り組みを、地域全体で強化していく必要があります。

図5 にかわ地域の市町別観光入り込みの推移（延べ）



イ 冬季の観光客の減少

にかわ地域最大の観光資源となっている黒部峡谷鉄道が運休する12月から4月下旬にかけては、観光入込客・宿泊者ともに極端に減少する傾向にあります。トロッコ電車の魅力のみに頼ることなく、冬に旬を迎える富山湾の海の幸^[写真]をブランド化していくなどPRに努め、また、冬ならではの体験型誘客商品を企画開発するなど、冬の観光入込・宿泊客を増やすための取り組みが必要です。



また、行政や観光事業者の「冬場はオフシーズン」といった固定観念を捨て去り、新規の誘客イベントを積極的に展開していく必要があります。

ウ 宿泊客数・滞在日数の増への取り組み

平成19年の宿泊客数は、512千人で観光客の大半は日帰り観光客となっています。各市町に高速道路のICがあり、富山市内まで約30分、金沢市内まで約1時間で移動可能な地理的条件は、観光地に気軽に立ち寄ってもらいやすいメリットでもある一方、にかわ地域での宿泊へとつながらず、立ち寄り型観光に偏る一因となっています。また、平成26年度末に北陸新幹線が開業すれば、東京までの所要時間が片道約2時間となることから、現状のままでは、ますます宿泊客が減少してしまうおそれがあります。

今後、宿泊客数の増加に向けて、宿泊施設の魅力向上の取り組みはもとより、行政や業種の垣根を越えた観光資源の相互連携や、滞在時間の延長や宿泊に直接結びつく早朝や夜間の体験メニューの新規開発や充実を図るなど、宿泊や宿泊日数の増へとつなげるための創意・工夫ある取り組みを強化しなければなりません。

エ 外国人（東アジア）観光客の誘致

外国人旅行者の訪日動機については、「伝統文化、歴史的施設」、「日本人とその生活」、「自然、景勝地」への関心が高く（JNTO調べ）、にかわ地域は、その特性が十分に備わっていることから、外国人向けにこれら情報発信を強化し、外国人観光客の来訪促進を地域間連携を進めて取り組むことが必要です。これまで、黒部峡谷鉄道や宇奈月温泉に偏っていた外国人観光客ですが、ホタルイカや屋気楼、ヒスイ海岸といった富山湾ならではの不思議や、扇状地の豊富な湧水資源などにも目を向けてもらえるよう、外国語表記の案内看板やゼンマイ式4カ国語音声ガイド^{【写真】}の整備や、パンフレット等の作成、観光案内所等での案内など、取り組みを強化していきます。また、環日本海時代の表玄関となる富山県にあって、富山空港と空路で結ばれている東アジアの対岸諸国からの誘客にターゲットを絞り込んだ誘客戦略が必要です。



韓国からの登山客誘致、中国本土からの修学旅行誘致など

オ 新幹線開業がにかわ地域にもたらす影響

にかわ地域の観光を今後大きく変動させる要因として、平成26年度に予定される新幹線と新駅の開業が挙げられます。

時間距離の短縮

東京とにかわ地域の主要駅間の所要時間は、乗り換えも含めて現在約3時間あまりですが、新幹線の開業により、乗り換えなしの2時間余りで新駅に到着できると見込まれます。そこから先の移動時間を見込んでも3時間足らずで（朝東京を發てば、昼前には）にかわ地域内の各観光施設にいたることが可能となります。東京から2時間という時間距離は、日光や箱根、外房とほぼ同じで、草津温泉や伊豆下田などよりはずっと近いということになります。時間距離の短縮は、観光客増加の可能性を開く一方で、短時間だけ立ち寄って他エリアへ移動するおそれも増大することから、観光客を一定時間滞在させられる条件整備が必要となります。

羽田・富山空路の存続問題

東京駅と富山駅とが約2時間10分で結ばれれば、羽田・富山間の航空便の速達優位性は大きく後退することとなり、場合によっては路線の成立が困難になる事態も想定されます。従って、代替路線の開発が問題となるものと思われます。なお、東京から約2時間50分の山形では、山形空港・羽田便は1往復だけで、新千歳・小牧各1、伊丹4の計7往復（平成21年1月）となっています。

(2) 基本的方向

課題解決の視点

ア 課題の分析

「強み」・「弱み」の分析から浮き彫りとなった課題

1. オフシーズン（冬場）の誘客
2. 知名度のある黒部峡谷と、いかわエリア(特に海)との連携イメージがない
3. 周辺の競合(和倉、加賀、金沢、氷見)に比べ、知名度が圧倒的に低い
4. エリア最大の温泉地の宇奈月が、ハード面で対応できていない(団体 個人)
5. エリアの広域観光商品が未開発
(点 線 面とつなげていくアクセスがない)
6. トロッコの集客力を宇奈月温泉に活かし切れていない
宿泊は金沢、氷見へ 宇奈月の魅力低下
7. エリア内市町の連携が弱い
8. 外国人受け入れ体制の未整備
9. 黒部峡谷内の開発制限・規制の多さ(国立公園・国有林野)
10. 販売戦略の強化(5W1Hをベースにしたエリアターゲットの絞り込み)
11. 広域観光の体制が未整備(情報発信の統一、連携体制)
なお、富山県や各市町では、H20を「観光元年」として強化に動き出した。

イ 課題解決に向けた方向性(3つの戦略と推進体制の強化)

地域の魅力の向上(プレミアム戦略)

まずは、旅行ニーズの変容や国際化など市場環境の変化に対応しながら、地域の強みをブラッシュアップし、他の観光地との差別化を図って魅力・競争力を高めていくことが重要であり、このため、観光資源の見直し・新規整備・ネットワーク化や、国際観光の推進などが課題となると考えられます。また、地域住民が、身近にある資源の良さや価値に気づき、地域ならではの生活や歴史・伝統、食文化などを活かして、それらを磨き上げ、質の向上を図る必要があります。

情報の発信(コミュニケーション戦略)



第二には、いかわ地域の魅力を広く知ってもらうことで、発信する情報の内容を厳選するとともに、効果的な発信方法を明らかにすることが課題であると考えられます。テレビやマスメディアを活用した情報発信のほか、「旅フェア」などの観光見本市への積極的な出展を通し、これまで全国的に知られてこなかった地域の魅力を発信し、誘客につなげていく必要があります。

写真：出向宣伝での郷土芸能紹介(「住吉新蝶六」)

誘客ターゲットの明確化と来訪者満足度の向上（ロイヤリティ戦略）

第三には、誘客ターゲットを明確化し、来訪者に心から満足してもらえる地域の受け入れ体制を整備・充実することが必要です。新幹線が開業すれば、東京から2時間程度、長野から40分台で結ばれることから考えると、地域的に最優先すべき誘客ターゲットは、長野を含む首都圏在住者となります。特に、内陸部からの観光客は、海や新鮮な魚介類を好む傾向があり、この地域の観光資源とニーズがマッチするものと思われます。【写真】



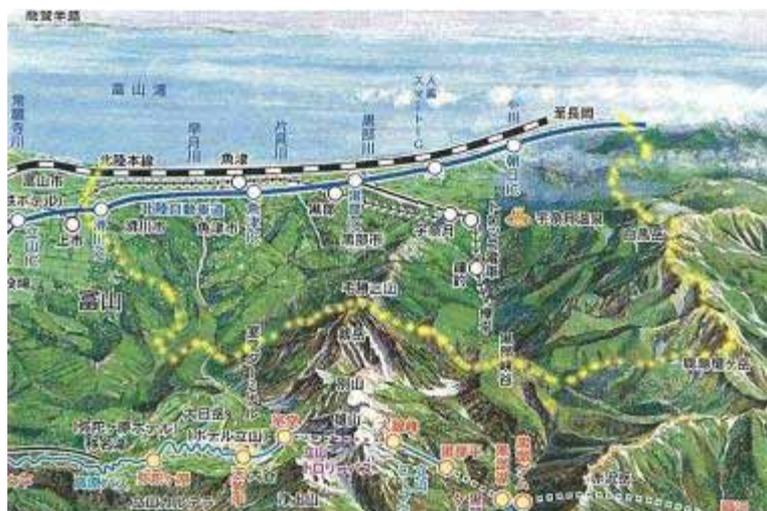
また、黒部峡谷や立山連峰・後立山連峰の山々、扇状地の湧水、新鮮な富山湾の海の幸といったにかわ地域の観光資源は、これまで自然指向の強い団塊層に最も支持されてきたことから、年代別では、時間的にも金銭的にも比較的余裕のある60代周辺（いわゆる団塊世代）の年齢層の誘客に最も力を注ぐこととします。こうしたターゲットの満足度を向上させるためには、観光従事者はもとより、地域全体での「もてなしの心」の充実、宿泊施設の質の向上、嘘やごまかしのない「本物のサービス」の提供、高齢者にも便利でわかりやすい交通アクセスや観光情報の提供などが課題であると考えられます。

推進体制の強化

第四には、課題克服のための事業や施策を、行政・民間・住民が連携して推進するための体制をしっかりと組んでいくことが大切です。これまでの観光事業は、とかく行政の枠組みに縛られがちで、出向宣伝や観光マップ作成といった一部のPR事業を除けば、市町の境界を越えたイベントや観光振興への取り組みは皆無といってよい状況でした。これまでの状況を反省し、各市町間の「競争」を「協調」に変え、観光客の目線で事業を連携していく必要があります。

観光圏整備事業のテーマ（コンセプト）

地域独自の観光を差別化し、ブランド化を図るため、目標像を設定します。



当観光圏域の最大の特長は、海から山岳まで個性的な「水」の魅力が連続すること。

神秘の海「富山湾」固有の不思議(ホタルイカ・屋気楼・埋没林、海底林、ヒスイ海岸など)

海洋深層水と湧水の魅力(清浄でミネラル豊富な深層水、生地の清水、沢スギ、行田公園など)

食の豊かさ(海産物(漁種の多さと蒲鉾・昆布文化)、農産物(水稲、ジャンボ西瓜、名水ポーク)など)

温泉郷(透明度日本一の宇奈月温泉をはじめ、海岸から山岳まで多様な温泉の連続)

黒部峡谷と山岳の魅力(水源の国有林を走るトロッコ電車、水力発電ダム群、万年雪など)



当観光圏域の魅力ある特色をどう生かすか、どう売っていくか？

水深1,000mの海の不思議と山岳3,000mの大自然を売り出す。
(4,000mブランド)

万年雪・峡谷の水～扇状地の湧水、海洋深層水まで。「水」で売り出す。
(名水ブランド)

海・里・山の豊富な食材と、ここならではの数々の郷土料理を売り出す。
(にいかわ食ブランド)



- ・ 将来ビジョン(5年後のゴールイメージ)

富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏域の観光商品ブランドの目標像

4,000mの高低差！山・川・海をまるごと満喫する『水の旅』の提案

- ・ 北陸地方の一角を占めながら、海(湾)と山岳の自然と、その水の恵みによって生み出された魅力をまるごと、見て、味わい、湯に浸かり、体験できる「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」として、国内外に発信。

海から山、4,000m大自然まるごと観光の発信

- ・ 当圏域の最大の特長は、富山湾深海 1,000mから 3,000mの山岳峡谷までの比高差 4,000mが連続して一体に展開される点であります。
- ・ 深海から山岳峡谷までの 4,000mの不思議と魅力をさまざまに味わいながら移動を楽しむ観光を軸としつつ、四季折々の景色、地域の歴史文化、食や健康、体験を絡め、観光客自らがドラマとして浸る観光物語を商品とします。
- ・ にかわ圏観光ブランド「4,000m山・川・海『水の旅』」を展開します。

にかわブランド「4,000m水の旅」の発信

- ・ 海洋深層水・湧水・大雪溪など、「山岳の湧水」「扇状地の湧水」「海の湧水＝深層水」の付加価値商品をにかわ観光ブランド商品として発信します。
- ・ にかわ圏域の海のドラマが、北前船や昆布ロードとして語られる江戸～明治の北洋交易・北洋開拓のストーリーとすれば、山のドラマは、昭和の黒部ダム建設に代表される電源開発のストーリーといえます。「立山黒部」の世界遺産登録について「信仰・砂防・発電」をテーマに申請が進められていますが、当圏域の水資源を日本の産業発展を支えた陰の立役者として、発信していきます。

滞在プログラムコースづくり

- ・ 当圏域で2泊3日滞在できる魅力コースを、基盤となるハードと一体に整備するものとします。
- ・ 海、里、山の各地域にコースを整備し、多様な組み合わせ商品を開発し、従来の観光客層の新しい観光利用や新たな観光客の掘り起こしを行います。
- ・ ガイドの有無、高齢者や家族、若者、女性、修学旅行児童、外国人などそれぞれの客層に向けて、通年型、季節型で商品化していきます。
- ・ 観光シャトルバスや観光タクシーなど、一定規模で二次交通も確保します。

【2泊3日を想定した体験型プログラムメニューコースの提案例】

プログラムコース	概要イメージ	1日目	2日目	3日目	対象の客層
：深海・山岳 4,000mの絶景堪能コース	・ 湾の不思議を解く楽しみと環境への想いを引き出す季節型 ・ ガイドつき	・ 遊覧船で富山湾絶景ポイントからの立山展望 と屋気楼観覧 ・ 釣り体験と船上料理。 ねっこランドとぼたる いかミュージアム	・ 新川牧場から湾と対岸の能登半島展望 ・ 深山の自然(片貝の洞杉・黒部峡谷など) ・ 携帯食 ・ 温泉交流	・ 扇状地の湧水や農産物を訪ね味わう ・ 海洋深層水施設やいろいろなKANで土産	・ 外国人 ・ 高齢者や家族 ・ 若者、女性
：海・里・山と歴史、農村、工芸体験コース	・ 体験を通じたにかわ地域のひとと風土の物語から記憶をさぐる ・ インストラクター	・ 地曳網漁業体験 ・ 加工：すり身団子または一夜干し作り ・ 食交流	・ 炭焼きまたは陶芸体験(夢創塾など) ・ ばたばた茶 ・ 食交流	・ 農業や花卉園芸業(チユリップ摘花)体験 ・ 蛭谷紙紙すき体験	・ 外国人 ・ 高齢者や家族 ・ 若者、女性 ・ 修学旅行児童

・タラソセラピー&アクアピクス「美容道場」コース	・海洋深層水を活用し、美容をデータや食材から巡る自分発見の旅を提供。通年型 ・インストラクター	・肌年齢測定 ・薬膳料理 ・中国伝来の推拿(すいな)体験やヨガ教室 ・深層水あわび料理 ・温泉保養	・深層水体験施設タラソピアで健康美を磨く。 ・美肌効果が高いコラーゲンたっぷりのゲンゲ料理 ・健康・美容談義	・食と農の考座 ・摂取カロリーとストレッチ ・「らくち〜」でアクアピクス体験 ・健康レシピ教室	・外国人 ・若者、女性(40歳前後)
・海道・街道・古道を訪ねるコース	・にかわの歴史や風土を歩く速度で実感 ・インストラクター ・ガイドつき	・北国街道を歩く ・芭蕉ゆかりの地めぐり ・生地まちあるき ・昆布の語り部	・にかわ里山古道巡り ・山城と中世の遺跡探し ・食べられる植物	魚の駅から海の駅まで船で海道を楽しむ ・歴気楼体験 ・ねっこランド観覧	・外国人 ・高齢者や家族 ・若者、女性
・ニッポンの縮図、にかわ地域の産業・文化を訪ねるコース	・北洋交易(昆布ロード)、電源開発の歴史や技術、技の日本を再発見 ・ガイドつき	・YKK ・地元工房を訪ねる。(大漁旗など) ・昆布の語り部	・飾り蒲鉾実演を見て体験(滑川、尾崎もしくは生地) ・農業・漁業	・電源開発の歴史とロマンを探る旅 ・下山発電所美術館 ・小水力発電やゼンマイの技術を知る	・外国人 ・若者、女性 ・修学旅行児童 ・高齢者

「泊」と「食」の魅力づくり

- ・ 泊食一体、泊食分離と食の推薦も可能な「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏まるごとマップ」の提供を行います。
- ・ 山の温泉地に泊まって、海の市場で新鮮な漁師の賄い料理を食べる、「市場で朝食」キャンペーンを試行します。
- ・ 温泉街の夜の賑わい回復を目指したイベントや交流事業に取り組み、泊まってこそその魅力を創出します。
- ・ また「海から山の大自然の食ごよみ」(参考:「宮城のブナ帯食ごよみ」)などを作成し、体験プログラムや食イベントなどでの活用を検討します。

地域連携型の仕組みづくり

- ・ 「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏」の観光事業の連携を進め、支援し、開発事業を行う協議会体制をつくりまします。それぞれ観光客層や観光のスタイル、時期、規模、主体の違いから一体的な観光対応が整うまで時間を要するものと思われます。そのため個々に共通なテーマや手法、もしくは補完する関係での連携型での取り組みを行います。
- ・ また、新しい観光商品づくりに、観光業とその他の商工業・農林漁業・環境活動・NPO活動などとの連携を図っていきます。
- ・ これらを含め「一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会」として構築します。そこではまた、当観光圏から外国人に人気のある立山連峰への展開や、立山観光から海もある当観光圏への来訪など「にかわ・立山連携」の仕組みづくりも行い、これを、世界遺産登録運動の連携と歩調を合わせた戦略的な観光連携とします。

地域連携を推進する基盤づくり

- ・ 観光ブランド開発の課題に挙げられている観光商品、観光コース、ソフトインフラに対応する地域連携を推進するためのハード基盤の整備を行います。

2 観光圏の区域

富山県
魚津市
滑川市
黒部市
入善町
朝日町

3 滞在促進地区の区域

(1) 区域

富山県黒部市「宇奈月温泉地区」(宇奈月温泉、宇奈月町音澤、宇奈月町内山、黒部峡谷口及び黒部奥山国有林地区)

富山県魚津市「魚津駅前地区」(村木、道下、天神、加積、下野方、上野方及び松倉地区)



(2) 設定理由

透明度の高い峡谷の湯として全国的な知名度のある「宇奈月温泉地区」(山の滞在促進地区)及び近年ビジネス型高層シティホテルの集積が著しい「魚津駅前地区」(海の滞在促進地区)を中核として、宿泊施設が複数集積しているエリアを設定します。

(3) 宿泊施設数

「宇奈月温泉地区」	27軒
「魚津駅前地区」	19軒

4 観光圏の整備目標

(1) 基本目標 (核となる個性と強みを分析し、その強化を図るための方向性に係る目標)

日本の屋根、北アルプスの一角を占める立山連峰や後立山連峰にそびえる3,000m級の峰々や、それらを源に一気に富山湾へと流れ下る黒部・片貝・早月などの急流河川群と清冽な湧水など豊かな大自然に恵まれた「にかわ地域」。山・川・海、そして里の恵みに支えられた暮らしとそこに息づく人々の暮らし、東西文化の結節点としての地理的特性や北前船との交易がもたらした独特の食文化や、勤勉な気質が生み出した「ものづくり」の伝統は、大きなにかわ地域の魅力となっています。また、圏域の市町や集落は、共通の習俗や文化などを有してはいますが、山間地・平野部・海岸部のそれぞれの自然環境も相まって、それぞれ多面的で個性的な魅力を有しています。こうした魅力を掘り下げ、磨き上げることによって、圏域としての多面体の魅力を発信することができると思います。

従来の黒部峡谷観光や温泉地滞在を中心とした一泊二日型の観光に加え、観光圏整備法で認められる旅行業特例制度を最大限に活かし、山・川・海4,000mの自然や味覚を満喫できる着地型商品を旅行者に提示し、さらにもう一泊滞在してもらえる仕組みづくりを進めていくと同時に、地域の住民が観光客との交流や学習を通し、生まれ育った郷土に対する愛着と自信を取り戻せる「住んでよし、訪れてよしの地域づくり」を通して、交流人口の拡大や、圏域のファンやリピーターを獲得していくことを目標とします。

また、こうした目標を具現化するための取り組みを観光業と他業種、地域産業と自治体、地域と地域の連携により実施し、2014年度に予定される北陸新幹線開業後も、宿泊・滞在地として旅行者に選ばれる、持続可能な観光地へと転換していくことを目指していきます。

(2) 数値目標

観光入込客数 (資料：富山県観光統計)

4,896 千人 25 5,675千人

宿泊客数 (資料：富山県観光課調べ)

512千人 25 593千人

外国人宿泊数 (資料：富山県観光課調べ)

13,564人 25 33,910人

平均宿泊日数 (資料：(株)リクルート「じゃらん宿泊旅行調査2008」における富山県の数値)

1.46日 25 1.69日

宿泊施設比[°]-ター率 (資料：宇奈月温泉の一部宿泊施設のお客様アンケート分析による)

11.5% 25 15.0%

主要観光施設の入込客数 (資料：各市町調べ)

《滑川市》

・ほたるいかミュージアム【写真上】

55千人 25 64千人

《魚津市》

・金太郎温泉 430千人 25 498千人

・ミラージュランド 244千人 25 282千人

・海の駅「蜃気楼」 211千人 25 245千人

《黒部市》・黒部峡谷鉄道 447千人 25 518千人
(うち訪日団体客 20千人 25 50千人)

・宇奈月温泉 406千人 25 471千人

(うち外国人客
8,806千人 25 21,912人)

・魚の駅「生地」【写真中】

219千人 25 254千人

《入善町》

・黒部川明日温泉(バーデン明日)

126千人 25 146千人

《朝日町》

・ヒスイ海岸【写真下】

(宮崎海岸・境海岸・オートキャンプ場)

122千人 25 141千人

1人あたり観光消費額 (資料：富山県観光課「富山県観光戦略基礎データ」調査)

県外からの日帰り観光入込客 13,923円 25 14,619円

県外からの宿泊観光入込客 43,884円 25 48,272円



5 観光圏整備事業に関すること

(a) 観光旅客の宿泊に関するサービスの改善及び向上に関する事業

No.	個別事業名	事業概要	実施主体	実施時期
a-1	山と海を結ぶ「市場で朝食」キャンペーン事業	滞在促進地区の朝食オプションとして、漁港で朝どれの魚が味わえるプラン。旅館から魚津・黒部・宮崎の各港へバスで移動し、その朝とれたての魚介を使った漁師の賄い料理や名物タラ汁を頂く。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会	H21,22
a-2	越中おわらとにかわの郷土民謡・郷土芸能の夕べ事業	従来、宇奈月温泉で夏に行われてきた「越中おわら宇奈月」を、地元住民との交流型へとステップアップ。越中おわらだけでなく、日替わりで観光圏域内の民謡演舞・郷土芸能団体が日頃の成果を披露。	一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光協会	H21,22
a-3	連泊者専用「手荷物運搬サービス」事業	圏域内での連泊推進を図るため、連泊客が対象の手荷物無料運搬サービスを実施。	宇奈月温泉旅館協同組合 ・魚津商工会議所	H21～25
a-4	ホテル・旅館での着地型旅行商品販売の推進	滞在促進地区である宇奈月温泉や魚津駅前地区のホテル・旅館等がフロントでの着地型旅行商品の販売を通じ、旅行者の利便向上や滞在促進につなげていく。	宇奈月温泉旅館協同組合 ・魚津商工会議所	H21～25

(b) 観光資源を活用したサービスの開発及び提供に関する事業

No.	個別事業名	事業概要	実施主体	実施時期
b-1	「にかわ」をPRする人材育成事業（仮称・にかわ案内人養成塾）	ホテル・旅館業、タクシー、観光施設等の従業員や観光ボランティアを対象に、観光圏域を積極的にPRできる人材を養成。また、人を楽しませる話術や、接遇にも力を入れていく。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会	H21～25
b-2	にかわ湯巡りパスの創設	地域内に点在する温泉入浴施設・旅館の共通入湯券を創設。にかわ湯めぐりマップも作成、マップには各温泉の泉質・歴史等を記載する。【活力ある地域づくり事業】	魚津市・滑川市・黒部市・入善町・朝日町	H21～25
b-3	にかわミュージアムパスの創設	地域内に点在する美術館・博物館・水族館等の共通パスを創設。また、ミュージアムマップを作成。【活力ある地域づくり事業】	魚津市・滑川市・黒部市・入善町・朝日町	H21～25

b-4	富山湾の冬の味覚「うまづらはぎ」のブランド化	富山湾全体の漁獲の約半数を占める魚津産ウマツラハギをブランド化。商品の差別化、漁価の維持・向上に努め、圏域内の宿泊施設への積極的なPR展開により、地産地消を目指す。	魚津漁業協同組合	H 21, 22
b-5	高低差 4,000m! 「山・川・海」をまるごと満喫する体験型観光のメニュー化及びモニターツアーの実施	観光圏域内で実施可能な「山・川・海」それぞれの魅力を体験できるプログラムをメニュー化。これらのPRを兼ねて旅行エージェントを対象にしたモニターツアーを実施。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H22 ~ 25
b-6	里山連携イベント「立山連峰のふもと・にかわ里山古道巡り」イベントの実施	にかわ地域内で中部北陸自然歩道のコースに設定された里山を歩く5コースを基本に一本の街道として設定。地元ガイドとともに歩くウォーキングイベントを実施。温泉や地元ボランティアとの連携で、コース・里山の維持管理にもつなげていく。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H22 ~ 25
b-7	地域連携イベント「にかわ奥の細道サイクリング」の実施	元禄2年に松尾芭蕉らが「奥の細道」の旅で歩いた市振～滑川の区間を自転車で行くイベントを実施。また、各市町のガイドボランティア団体の連携を深めていく。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H22 ~ 25
b-8	富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏統一ロゴの作成（仮称・4,000mトレサブル事業）	水深1,000m超の富山湾、標高3,000m級の北アルプス立山連峰や後立山連峰の「山・川・海」、そして豊富な水資源に恵まれた当地域の観光圏イメージを表現した統一ロゴを設定。4,000mの高低差にこだわり、圏域内の土産物や旅行商品には、産地や目的地の標高や水深を統一ロゴと併せて記載するなど、ここだけのブランドを全国に発信。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H 22, 23
b-9	水陸両用バス運行実験	海・川・ダム湖を体感する水陸両用バスの実験運行。黒部峡谷鉄道が運休する冬の目玉事業としての運行を検討。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H 22, 23
b-10	「タラソピア」と「らくちの」を活用したヘルス&ビューティーツアー「美容道場」の開発・実施	海洋深層水体験施設「タラソピア」や朝日町「らくちの」を活用し、圏域内の旅館の宿泊客に「ヘルス&ビューティーツアー」を提供。海洋深層水美容体験やアクアビクスを実施し、美と健康を追求していく。	株式会社WAVE滑川	H 23, 24
b-11	観光プロデューサー招へい事業	観光事業の専門家を、観光圏プロデューサーとして招へい。地域全体の連携・交流の促進や、イベントの企画立案、誘客・滞在の促進につなげる。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H 23, 24

b-12	にいかわ地域連携統一ブランド「4,000m水の旅」(仮称)の立ち上げ・情報発信	2014(H26)年度に予定される北陸新幹線新黒部駅(仮称)の開業を控え、圏域内の統一ブランドを立ち上げ、メディアを活用した情報発信を展開。特に富山湾の魚や冬野菜がおいしくなる「冬の名水料理」の共同展開によるオフシーズンの誘客促進を模索。	魚津商工会議所・滑川商工会議所・黒部商工会議所・宇奈月町商工会・入善町商工会・朝日町商工会・魚津市農業協同組合・黒部農業協同組合・みな穂農業協同組合・魚津漁業協同組合・くろべ漁業協同組合・入善漁業協同組合・朝日町漁業協同組合	H25
b-13	にいかわのお宝発見モニターツアーの実施	滞在促進地区からGW、夏休み、秋の行楽シーズンを中心に、観光圏域の隠れた観光資源や見どころをめぐるミニツアーを実施。また、人材育成や団体間の連携促進につなげていく。駅からの観光タクシー事業も検討。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会	H21～ 25

(c)観光旅客の移動の利便の増進に関する事業

No.	個別事業名	事業概要	実施主体	実施時期
c-1	長野宇奈月直行シャトルバスの運行実験	2014(H26)年度の新幹線開業を前に、首都圏の個人客の誘客促進をはかるため、現在の新幹線終点の長野駅と宇奈月をノンストップで結ぶシャトルバスの運行実証実験を行う。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会 ・宇奈月温泉旅館協同組合	H21～ 25
c-2	産業観光シャトルバス運行の実証実験(仮称・にいかわものづくり探検ツアー)	H21年春にオープン予定のYKKセンターパークを核として、滞在促進地区である宇奈月温泉や観光圏域内の産業観光施設等をつなぐシャトルバスの運行実証実験を行う。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会 ・YKK株式会社黒部事業所	H21～ 25
c-3	富山湾横断観光船運航実験(黒部～氷見)	富山の2大ブランド黒部と氷見をつなぐ観光船の運航実験。観光客に富山湾ビューポイントから見る「4,000mの大自然」や「一本の木が千本のプリを育てる」ストーリーを実感してもらおう。また、富山湾をクルージングする新しい観光資源開発により、誘客・滞在促進につなげていく。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会	H21～ 25
c-4	朝日岳・僧ヶ岳・洞杉方面への登山シャトル運行実験事業	朝日岳、僧ヶ岳・駒ヶ岳などへの登山客や片貝川源流域に広がる洞杉群に向かう、滞在促進地区や駅からのシャトル便を試験運行。また、希望により地元ネイチャーガイドの仕組み構築も検討する。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会	H23～ 25

c-5	黒部峡谷を2倍楽しむイベントトロッコの実験運行	新緑や紅葉、または早朝・夜間等、黒部峡谷の魅力を十分楽しんでもらうための演出・企画を施したトロッコの実験運行事業。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H23～ 25
c-6	樺平～祖母谷間シャトルの運行実験事業	黒部峡谷の樺平から、白馬岳・唐松岳への登山基地である祖母谷まで約2.5km区間のシャトル運行について可能性を検討する。また、同区間の整備事業との連携を模索していく。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H25

(d) 観光に関する情報提供の充実強化に関する事業

No.	個別事業名	事業概要	実施主体	実施時期
d-1	観光圏認定案内所の整備	JR魚津駅構内の「魚津駅観光センター」と宇奈月温泉無料休憩所いっづく処観光案内所を観光圏認定案内所として整備。	西日本旅客鉄道株式会社金沢支社富山地域鉄道部・一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光協会	H21
d-2	日本観光博覧祭「旅フェア」等への出展	国内最大級の観光総合見本市「旅フェア」への出展や「空港を活用した国内観光振興プロモーション」を実施。4,000mの高低差を誇る当観光圏の魅力を積極的にPRし、国内外からの誘客を促進する。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H21
d-3	にかかわ朝市街道マップの作成	圏域内各所で行われている朝市を一堂に紹介したマップを作成。割引クーポンも添付する。【活力ある地域づくり事業】	魚津市・滑川市・黒部市・入善町・朝日町	H21
d-4	富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏PRビデオの作成・ITを活用した情報発信	従来それぞれの観光協会が作成していたPRビデオを共同作成。制作した映像は、観光圏案内所や一部観光施設へ依頼しPR媒体として活用するほか、インターネットでの配信も試みる。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H23,24
d-5	にかかわ飲食店ガイドの作成・配布	圏域全体で飲食店ガイドを統一し各市町の掲載希望店を募り、有料で飲食店マップを作成。滞在促進地区の旅館等でも配布し、泊食分離推進への一助とする。	一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかかわ観光圏協議会	H23,24

(e) その他の事業

No.	個別事業名	事業概要	実施主体	実施時期
e-1	国際観光促進事業	富山～大連便を活用。中国大連からの修学旅行を誘致し、滞在促進地区である宇奈月温泉での宿泊、公共宿泊施設での合宿による体験学習、地元中学校との交流等、県外での視察を含め6泊程度の修学旅行を提案。これからますます重要となる中国からの集客の先例となるモニタリングツアーを実施。	株式会社ニューージャパントラベル	H21

6 計画期間

(1) 計画期間

平成21年4月から平成26年3月末までとします。

(2) 計画の見直し等

本計画は、実施計画の進捗状況、目標の達成状況及び社会情勢等を考慮し、にいかわ観光圏協議会において、適宜見直しを行うこととします。また、来訪者ニーズを踏まえ、提供する観光サービス、滞在プログラムの品質向上への見直し・改善ができるようPCDAサイクルを活用し、計画のマネジメントを行うこととします。

(3) 計画変更の手順について

軽微なものについての見直し及び変更手順について

富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏協議会構成3市2町の担当者と協議し、理事会に諮り、見直し及び変更を行うものとします。

上記以外の見直し及び変更手順について

富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏協議会の定時社員総会もしくは臨時社員総会において協議し、パブリックコメントを経た後、見直し及び変更を行うものとします。また、変更計画の素案は、インターネット上の他、構成3市2町の観光担当課でも供覧するものとします。

なお、ここで掲げる軽微なものとは主に以下のものとします。

- ア 整備計画における誤字・脱字に関するもの。
- イ 整備計画「3. 滞在促進地区の区域」における設定理由及び宿泊施設数に関するもの。
- ウ その他、整備計画に大きな影響を及ぼさないと認められるもの。

7 関連する社会資本整備、地域再生事業、地域活性化

事業等

にかわ地域では、地域活性化・観光振興等のため、次の社会資本整備等の各事業等と連携し総合的に取り組んでいます。

民間都市再生整備事業計画（都市再生特別措置法第63条第1項）

事業名：（仮称）魚津駅南インテリジェントビル整備計画

事業主体：魚津駅南開発（株）（魚津商工会議所100%出資）

・中心市街地の結婚式場跡地に6階建ビルを建設。地元メディアなど集客力のある地元企業の入居により、外部に開かれた吸引力のある施設とし滞在促進地区である魚津駅前周辺地区の魅力アップを図ります。

【魚津港の地域活性化事業】

住民参加型まちづくりファンド支援事業（（財）民間都市開発推進機構）

（魚津市：みなとまちづくり事業）H20～H23

- ・「魚津港」^{【写真】}のランドマークとなるモニュメントの設置（H20）
- ・米騒動発祥の地である旧第十二銀行米倉保存整備（H21～H23）^{【写真】}
- ・みなとまちへの観光客誘導案内板等の設置（H21～H23）
- ・みなとまちの賑わい創出事業（H21～H23）
- ・横山源之助の碑移転事業（H20）



港整備交付金

（下新川地区の快適で安心な港づくり計画：魚津港と石田漁港との連携）H20～H22

- ・魚津港：耐震岸壁の整備(震災時の輸送拠点)、荷捌き施設の効率化(漁業の振興、物販施設での販売)、地域開催イベントの実施
- ・石田漁港：釣り桟橋の改修(漁業とマリンレジャーとの調和)、地域開催イベントの実施

港湾整備事業

（魚津港における港湾改修事業および港湾環境整備事業）H20～

- ・護岸整備：魚津港における背後施設等の安全性向上のため防波護岸の整備
- ・物揚場整備：各種船舶における係留機能拡充を図る整備
- ・臨港道路整備：護岸および物揚場背後のとの交通アクセスを円滑に図る整備
- ・緑地整備：魚津港内における休息緑地のための整備

都市再生整備計画（まちづくり交付金）

（黒部市：宇奈月温泉・地鉄沿線地区）H20～H24

宇奈月温泉街の活性化を図り、観光客数と滞在時間の増を目指します。

- ・観光客等来訪者誘導看板設置、歩行者回遊促進実験
- ・総湯会館の建設、無料休憩所「いっぷく処」改修
- ・北陸新幹線新黒部駅（仮称）周辺整備事業

（黒部市：三日市地区）H17～H21

中心市街地であり交通上の要衝でもある三日市地区周辺のアクセス向上等を図り、賑わいの回復を目指します。

- ・都市計画道路前沢植木線と富山地方鉄道本線交差部の踏切拡幅
- ・三日市保育所周辺土地区画整理事業の推進、JR黒部駅前広場の拡張
- ・市道石田8号線交差点改良工事、石田地区での道路消雪設備の設置

（入善町：入善地区）H17～H21

交流機能の拡充とにぎわい空間の創出により、中心市街地の活性化を図ります。

- ・うるおい館、花月公園、町民会館コスモホールの整備
- ・入善スマートICの設置及び周辺サイン等の整備

一般国道8号入善黒部バイパス整備事業

（魚津市・黒部市：H26までを目途とした暫定2車線開業を予定）

にかわ地域の大動脈である国道8号は、恒常的に渋滞が発生しており、比較的コンパクトな圏域であるにもかかわらず、観光施設相互の移動に相当の時間を要しています。現在進められているバイパス整備事業は、広域的交流の促進、地域活性化の推進、そして観光交流の推進のため必要不可欠の事業であり、本事業の推進により、圏域外からの来訪者の利便が向上し、隣接地域との連携も図れるようになり、広域観光圏であることの強みを一層強化することが可能になります。未開通区間である魚津市江口～黒部市古御堂区間の早期の整備・開業にむけ、努力していきます。

魚津・朝日間湾岸道路の建設促進

魚津市・黒部市・入善町・朝日町は、いずれも富山湾や日本海に面していますが、交通の大動脈である国道8号はやや内陸を横断しており、海岸線沿いの道路は、いずれも狭あい各河川により分断されている現状です。海岸線沿いをつなぐ幹線道路である主要地方道魚津生地入善線及び主要地方道入善朝日線のバイパス（通称「湾岸道路」）の整備を図ることにより、各観光施設間の交通アクセスが改善され、シナジー効果による観光入り込み客の増加が期待されます。

- ・主要地方道魚津生地入善線地方特定道路整備事業

（黒部市立野～黒部市生地 L=880m）H10～H27

ISHIDA海浜エリアと清水^{しょうず}の里生地を結びます。

- ・主要地方道入善朝日線臨時道路交付金事業

（入善町古黒部～朝日町草野 L=1,500m）H14～H26

入善町の杉沢の沢スギ・じょうべのま遺跡・風力発電所^{【写真】}などのエリアと朝日町のヒスイ海岸エリアを結びます。



北陸新幹線新黒部駅（仮称）へのアクセス道路の整備

2014年度までの開業が予定されている北陸新幹線新黒部駅（仮称）は、にいかわ地域を含む富山県東部唯一の新幹線駅であり、にいかわ地域のみならず、立山黒部アルペンルート方面へ向かう首都圏や長野県方面からの観光客の玄関駅になると予想されています。開業まで約5年となり、この駅とにいかわ地域各市町の滞在促進地区や観光拠点施設を結ぶアクセス道路の整備が喫緊の課題となっています。

- ・ 県営農免農道整備事業新川中部二期地区（黒部市区間）
（黒部市田家～前沢 L = 1,850m）H19～H24
滞在促進地区である魚津駅前地区と新幹線駅方面を結びます。
- ・ 主要地方道黒部宇奈月線（県道14号）臨時道路交付金事業
（黒部市荻生～若栗 L = 2,400m）H11～H26
- ・ 市道新堂中新線道路改良事業
（黒部市荻生～大布施 L = 1,250m）H10～H22
- ・ 市道新堂中新線道路改良事業（2期地区）
（黒部市大布施地内 L = 1,050m）H20～25
- ・ 市道新黒部駅前線整備事業
（黒部市若栗地内 L = 195m）H19～22
黒部市の海岸部や市街地、また滞在促進地区である宇奈月温泉と新幹線駅を結ぶ「背骨道路」となります。
- ・ 主要地方道入善宇奈月線臨時道路交付金事業
（入善町町新屋地内 L = 2,100m（全体計画））H11～H22（第1期工区）
入善町と新幹線駅や滞在促進地区である宇奈月温泉地区を結びます。
- ・ 県営農免農道整備事業新川中部二期地区（朝日町区間）
（朝日町南保～大家庄 L = 460m）H19～H24
- ・ 主要地方道黒部朝日公園線県単道路改良事業
（入善町野中地内 L = 2,000m）H18～未定
朝日町と新幹線駅や滞在促進地区である宇奈月温泉地区を結びます。
- ・ 一般県道沓掛魚津線地方特定道路整備事業
（黒部市東三日市地内 L = 540m）H8～H24
黒部市街地と新幹線駅へのアクセス道路である市道新堂中新線を結びます。

東部山麓道路の整備

にいかわ地域を含む富山県東部地域の山麓部は、立山連峰から続く尾根により市町を隔てられているケースが多く、実際の距離の割に道路整備が進まず、これまで交流や連携の妨げとなってきました。現在、関係市町で組織する「東部山麓道路建設促進期成同盟会」が平成5年以降活動を続けており、この道路整備によって、東福寺野自然公園^{〔写真〕}や北山鉱泉、宇奈月温泉等の中山間地にある各観光施設間の交通アクセスが改善され、シナジー効果による観光入り込み客の増加が期待されます。また、この道路は、魚津市、滑川市方面と新幹線駅をつなぐアクセス道路でもあり、地域の連携を促進するために重要な路線です。

- ・ 主要地方道宇奈月大沢野線県単調査費
（滑川市）
- ・ 主要地方道宇奈月大沢野線臨時道路交付金事業
（魚津市青柳～六郎丸）
- ・ 主要地方道宇奈月大沢野線県単道路改良（交安）事業
（魚津市横枕地内）
- ・ 主要地方道宇奈月大沢野線地方特定道路整備事業
（黒部市中山～宇奈月町栃屋）



日本海・関東首都圏連絡道路（新川・大北直結道）建設構想の推進

富山県と長野県は、隣接県であるにもかかわらず、県境の険しい山脈に阻まれ、自動車道で直結されていない日本で唯一の例です。現在、富山県内では新川大北ルート・上市ルート・立山ルートの3ルートが検討されていますが、いずれも構想の域を脱していません。現在、魚津市・黒部市・入善町・朝日町並びにその関係者で組織する「日本海・関東首都圏連絡道路建設構想推進会議」が平成4年以降活動を続けており、将来的に建設が実現すれば、北陸地方と関東甲信地方との人や物の流れや連携が新たに生まれ、また北アルプスを貫く一大観光ルートとして観光入り込み客の増加が大いに期待されます。

平成21年度活力ある地域づくり支援事業（（財）地域活性化センター）

事業名：広域連携推進助成事業（3市2町による共同申請）

事業内容：にかわ地域の3市2町が広域的に連携して次のソフト事業を行います。

- ・にかわ湯めぐりパス事業（割引特典付き共通入湯券の販売及びマップ作成）
- ・にかわミュージアムパス事業（割引特典付き共通入場券の販売及びマップ作成）
- ・にかわ朝市街道事業（割引特典付き朝市マップ作成）

黒部峡谷樺平～祖母谷間の安全通行及び移動利便の確保

宇奈月温泉及びにかわ地域での宿泊率を高め、また黒部峡谷鉄道トロッコ電車乗降客の峡谷内での滞在時間を延ばすためには、終着駅である樺平周辺の観光資源の魅力向上策が欠かせません。樺平周辺は、自然公園としてのフィールドが比較的狭く、訪問客の散策路も限られたものになるため、団体客を中心に鐘釣で引き返し、宇奈月温泉周辺ではなく富山市や石川県方面に宿泊先を求める一因になっています。こうした現状を打開し、団体客にも樺平まで足を伸ばしてもらい、宇奈月温泉周辺やにかわ地域での宿泊率の向上を目指すためには、樺平から奥鐘橋を渡った東側エリアの開発が急務です。祖母谷（ばばだに）温泉周辺^{【写真】}は、黒部川の支流である祖母谷川と祖父谷（じじだに）川の合流点にあたる要衝で樺平から東に約2.5km、徒歩で片道約50分の場所に位置し、北アルプス白馬岳や唐松岳の登山拠点の役割を有しているほか、比較的フィールドも広く、河原から湧く高熱の温泉など観光客が求める大自然の魅力にあふれたまさに絶好のポイントです。しかし、途中の区間は落石多発地帯であり、途中の名剣温泉から先の通行には現在ヘルメットの着用が義務づけられているほか、落石の危険から奥鐘橋から先の通行止が何日も続くことも珍しくありません。そのため、現状では樺平から祖母谷温泉周辺まで向かう観光客は、全体のわずか2%程度にとどまり、せっかくのポイントが活かされていない状況です。樺平から祖母谷まで、自動車では約20分の距離であり、登山客の交通利便確保の観点からのシャトル運行の可能性を探るとともに、登山者の安全通行の確保及び落石被害防止のための整備が促進されることを国に要望するものであります。



富山県自然環境整備事業（片貝県定公園の整備）H19～H22

- ・ 遊歩道整備 H19～21
- ・ 駐車スペース確保 A=400m² H19
- ・ 案内看板・注意看板の設置 H20～H22
- ・ テーブル、ベンチの設置 H21
- ・ トイレ整備 H22

県営公害防除特別土地改良事業黒部2次地区

(黒部市：石田地区、大布施地区、三日市地区) H20～H26

・市内の一部に残る汚染農用地を復元し、土壌汚染対策地域等の指定地域解除（安全宣言）を行うことにより、農業従事者の営農意欲の向上を図るとともに地域ブランド「黒部米」のさらなるPRに努めます。

農山漁村交流促進事業

事業メニュー名：地域資源活用総合交流促進施設（黒部市^{おりたて}下立地区） H21（予定）
事業メニュー番号：41

事業内容：農林水産物直売所の整備

総事業費：45,890千円 1棟264㎡

・道の駅「うなづき」の宇奈月麦酒館^{【写真】}隣接地に農林水産物直売所を整備し、地元住民と観光客が直接交流でき、地産地消の拠点となる場を提供します。



事業メニュー名：自然環境等活用交流促進施設（入善町飯野地区） H22（予定）

事業メニュー番号：44

事業内容：農産漁村体験施設、野営施設整備他付帯施設及び回遊遊歩道他周辺整備
総事業費：252,500千円

事業メニュー名：自然環境等活用交流学習施設（黒部市^{いくじ}生地地区）
H23実施設計、H24～設置工事（予定）

事業メニュー番号：37

事業内容：漁業資料館の整備

総事業費：60,000千円 1棟250㎡

・建設予定地は、黒部漁港敷地内であり、近年、清水の里生地まちあるき観光の拠点として、観光客が急増している魚の駅「生地」に近接しています。生地地区に古くから伝わる地曳網^{【写真】}などの伝統漁法や漁具の伝承学習施設として、広く活用するとともに、魚の駅「生地」とのシナジー効果による誘客促進を図っていきます。



事業メニュー名：地域資源活用総合交流促進施設（入善町飯野地区） H24（予定）

事業メニュー番号：42

事業内容：海洋深層水を体験するための多目的プール、休憩施設他付帯施設整備、特産品加工・販売施設

総事業費：1,032,000千円



写真は、入善海洋深層水活用施設

事業メニュー名：高齢者・女性等地域住民活動・生活支援促進機械施設（黒部市宇奈月地区） H20～H21

事業メニュー番号：52

事業内容：宇奈月交流センターの整備

総事業費：132,520千円

・交流施設を開設し、農山村地域の良さを積極的に普及する情報発信基地・農林業学習体験の提供の場とするほか、農山村地域交流の場とすることにより、定住化の促進を図ります。

8 一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏

協議会について

- (1) 協議会定款（別添1）
- (2) 協議会構成（別添2）
- (3) 協議結果（別添3）

9 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措

置及び反映内容

(1) 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置

本計画の決定に際して、住民その他利害関係者の意見を幅広く求め計画に反映させることにより、計画をより実効性のあるものとするため、計画の案を示してパブリックコメントの募集を行なう。応募された意見については、意見の反映結果およびその理由を記載する。

集計に関する事務を効率化し計画への適切な意見反映を行なうため、パブリックコメントの募集は協議会事務局において行なうものとし、各会員はパブリックコメント募集の周知に協力するものとする。

(2) 措置手順

パブリックコメントについて、以下の日程・内容により実施した。

実施期間 平成21年2月9日（月）～16日（月）（8日間）

実施内容

- ア 魚津市、滑川市、黒部市、入善町及び朝日町の公式ウェブサイト上にパブリックコメント募集告知を掲載。郵送、FAX または電子メールにて意見を募集。
（『「富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏整備計画」（案）へのご意見を伺います』）
- イ 富山県においても、公式ウェブサイト上でパブリックコメント募集を行なっている旨の周知を実施。

(3) 応募意見と計画への反映状況

パブリックコメント期間中、観光圏域内在住の4名の個人から、計7件の意見を頂きました。以下に応募意見の要旨と計画への反映結果を記します。

応募意見の要旨	本計画への反映状況
【全般】	
<p>計画起案者のバックグラウンドが解るよう所属と名前を開示してほしい。</p>	<p>本計画については、観光圏域内3市2町及び富山県の観光担当課で協議を重ね、策定したものです。なお、計画素案段階での起案は、主に観光圏協議会設立準備会事務局（黒部市商工観光課）において行いました。</p>
【1 観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本的な方針】	
<p>交通手段の分析は、観光客の目的、行動パターンなどを知る重要な手段と思われる。Page10宇奈月宿泊客の利用交通機関別の変化（H9 H19）で、観光バスが24%から43%になった市場（客層）の分析と将来の傾向を予測した上での観光戦略の立案が必要。更にPage11のアンケートでは自家用車が67%でバスの数字が出てこないの、回答客層の分析が必要。</p> <p>また圏内の観光客の交通手段データ収集も必要で、これにより観光圏整備事業の(c)「観光旅客の移動の利便の増進に関する事業」に有機的に関連させられる。</p>	<p>残念ながら、現状では観光戦略の立案上、十分なデータが揃っていないとは言い難い状況です。今後、圏内観光施設等でのアンケート実施・分析により、より詳細なデータ収集に努め、今後の計画策定に活かしていく所存です。</p>
【2 観光圏の区域】	
<p>本観光圏域の観光商品ブランドの目標像として「4,000mの高低差！山・川・海をまるごと満喫する『水の旅』」を掲げているが、黒部川は流域圏に上市町、立山町、旧大山町（富山市）を含み、早月川は流域圏に上市町を含む。この2大河川の源流域を観光圏に含めることで魅力が倍増する。</p> <p>Page20の「地域連携型の仕組みづくり」の広域観光では行政の縦割りを排除し、具体的に推進する体制を明確にすべきだ。</p> <p>最近、早月川右岸の県道整備によりJR滑川駅や滑川ICから蓑輪を経て馬場島に向かうコースのほうがJR富山駅や立山ICから上市町を経由するより時間的、距離的に有利であり、河口から源流までの早月川流域を観光資源にするには最適のコースである。</p> <p>民間主体で編纂の「黒部川物語」「早月川風土記」という書籍は、内容に行政の区分を感じさせない。河川を観光の資源と見るとき、広域連携は必須条件だ。</p>	<p>ご意見を踏まえ、上市町、立山町等との山岳観光連携についても、これまで以上に積極的に進めていく所存です。なお、観光圏の区域の拡大については、今後関係自治体並びに関係諸団体の意見を集約し、協議を行うものとします。</p>
【5 観光圏整備事業に関すること】	
<p>既存の観光地の質の向上で集客力を上げることも大事だろうが、インパクトのある新しい滞在型の観光地の開発も重要。スイス山岳観光地を参考に僧ヶ岳に250パーミル勾配規模の登山鉄道の建設を調査開発できないか。この開発により、後立山連峰・剣北方稜線から富山湾が一望でき、海や峡谷観光の後、海から山まで最も距離が近い僧ヶ岳から圏域全体を見渡し、能登半島に沈む夕陽や夕陽に照らされる山々、富山の夜景を見て感動いただけるのではないか。</p>	<p>本計画では、観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律の趣旨を踏まえ、今後5年間に想定される観光圏整備事業案を掲載しました。従いまして、いわゆるソフト事業主体の事業案となっております。</p>

<p>1. 国内外の観光地にはライブカメラが設置されており、現在の様子をインターネットで知ることができる。さくらの開花情報、スキー場積雪、山岳情報等正確な情報を得ることができるし、その画面からHPが検索できる例もある。しかし、現在のにかわ地域のライブカメラは不十分であり、観光客誘致の視点からネットワークを整備する必要がある。最近の若年層は、携帯電話からインターネットでの情報収集が一般化している。</p> <p>2 地域内のCATVに観光用の統一チャンネルを設け、県内主要観光施設や宿泊施設の天気、催事予定を見ることができれば、再訪、連泊につながる。又インターネットでも配信できれば良い。</p>	<p>1 及び 2 のご意見を踏まえ、今後、一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会で検討していく所存です。</p>
<p>【7 関連する社会資本整備、地域再生事業、地域活性化事業等】</p>	
<p>(富山県自然環境整備事業(片貝県定公園の整備)について)</p> <p>圏域では自然を中心に人を呼び込むしかなく、毛勝岳の登山道整備と山小屋の建設を提案したい。毛勝岳は深田久弥が100名山に入れるか最後まで迷った山で登山愛好家にはメジャーだが、アプローチが長い上、途中で小屋も水場も無く、一般登山者が登れない。登山人口は900万~1100万人ともいわれ、小屋ができれば、間違いなく登山客が訪れる。当然、小屋で宿泊することになり、到着時間によっては前日泊、下山泊も考えられる。また登山人口の大半は金銭的余裕のある中高年が占めており、誘致しない手はない。</p> <p>毛勝山から毛勝三山(釜谷、猫又)経由で馬場島ルート、毛勝山から駒ヶ岳・僧ヶ岳経由で宇奈月ルート等と拡張でき、縦走が可能(その場合は更に小屋が必要)になればさらに客足も期待でき、『帰りに宇奈月で一泊』ということにもつながる。圏域で黒部峡谷を除けば全国から人を呼べる魅力は山岳地しかない。その他はどれをとっても小粒である。</p>	<p>ご意見を踏まえ、今後、一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会で検討していく所存です。本整備計画においても、北アルプスへの登山者を重要な集客ターゲットの一つと位置づけており、観光圏整備事業の中で、洞杉など片貝流域・僧ヶ岳・朝日岳方面への登山シャトルバスの運行実験事業を行う予定としております。</p>
<p>【9 住民その他利害関係者の意見を反映させるための措置及び反映内容】</p>	
<p>意見を広く住民等から徴する趣旨からもウェブサイト告知のほか紙ベースでも併せて案内配布頂くとデジタルデバイトの方にも行き渡り、又、Public Involvementが高まるものと思う。</p>	<p>ご意見の趣旨を踏まえ、今後、変更計画の素案は、インターネット上の他、構成3市2町の観光担当課でも供覧するものとしました。(Page28「6 計画期間(3)計画変更の手順について」をご覧ください。)</p>

(参考計画等)

- ・北陸信越運輸局観光圏整備事業基礎調査 - 石川・富山 - 報告書(平成20年3月調査)
- ・新川地域広域市町村圏計画(平成13年3月策定)
- ・黒部市観光振興計画(平成19年3月策定)
- ・第3次滑川市総合計画 - 21世紀新生プラン - (平成13年3月策定)
- ・魚津市総合計画第8次基本計画(平成18年3月策定)
- ・第1次黒部市総合振興計画(平成20年3月策定)
- ・入善町総合計画・後期計画「入善町新世紀の扉」(平成18年1月策定)
- ・第4次朝日町総合計画(平成18年3月策定)